

平成 25 年度事業報告(概要)

1. 事業計画

(1) 内容

学生の自主性、創造性を刺激することにより、勉学意欲の向上を図るため、学生自主企画による研究プロジェクトを公募し、選考されたものに対して、研究資金を助成する。その研究成果の発表会を開催し、理解の共有化を図る。

(2) 申請者

愛知県立大学生、同大学院生で構成された研究グループ(グループ内の学生の所属学部・学年は不問。できれば学部や学年が混在することが望ましい。)は、代表者を含む正規構成員(3 名～10 名)と協力者(0 名～人数制限なし)とする。同一人が、正規構成員として複数グループに属することはできない。本学専任教員 1 名の推薦が必要。推薦教員はその研究グループのアドバイザーに就任する。

(3) 研究テーマ

自由。ただし、授業での研究、個人の卒論・卒研・修論・博論と同一の研究、および、過去に採択された研究課題と同一のものは不可。

(4) 助成金額

最大 300 千円/件

(5) 助成件数

10 件程度

(6) 採択方法

第一次審査 提出書類による。

第二次審査 第一次合格グループに対して公開ヒアリングを行い、選考委員会が決定。

(7) 研究期間

2013 年 6 月 1 日(土)から 2014 年 1 月 22 日(水)まで

(8) 研究成果公開

研究終了後、研究発表会を開催する。その後、レポートを製本し、学内外に配布する。

2. 経過

4 月 17 日	募集要項公開
5 月 20 日	申込締切 申込件数 14 件
5 月 21 日	第一次審査 14 件を選考
5 月 23 日	第一次審査結果発表
5 月 29 日	公開ヒアリング 13:00～15:00 於 H005、準備 1 分・発表 7 分・質疑応答 2 分 審査員：学長、副学長、学部長、センター長

	各審査員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の5基準を各4点で採点、合計20点満点で採点 <参加者80名>
5月31日	審査結果をもとに、教育支援センター運営会議で原案を作った上で、学長、教育支援センター長が最終選考を行い、11件を採択。
6月1日	第二次審査結果発表
6月6日	研究助成金取扱説明会
6月26日	学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座開催 13:00～14:00「社会調査入門」松宮朝准教授(社会福祉学科) <参加者50名>
10月16日	中間発表会 13:00～15:50 於 H005、発表12分・質疑応答2分・交代1分 <参加者70名>
1月22日	研究期間終了
1月22日	研究発表会 13:00～16:00 於 H005、発表12分・質疑応答・2分・交代1分 参加者95名 終了後、交流会・表彰式～16:50
1月23日	実施報告書提出
1月25日	研究成果レポート提出

3. 評価と課題

☐ 本事業も7年目となり、募集開始から最後の研究発表会に到るまで、順調に進めることができた。

☐ 昨年度と同様、テーマを自由とした。但し書きとして今年度も「授業での研究、個人の卒論・卒研・修論・博論と同じ研究」及び「過去に採択された研究課題と同一の研究」は不可とした。

☐ 応募要領の「審査基準」は、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」であること(ただし、単なる「活動」ではなく、「自主的な問題意識」を持って、何を明らかにし、そこから何を学び取ろうとしているか、が明確であること)、②実行可能性、③プレゼンテーションとし、この基準に従い、第一次審査、第二次審査(公開ヒアリング)を実施した。

また、昨年度と同様、採択され研究成果を発表したグループの正規構成員に対して研究テーマを記した学長名の賞状(金賞・銀賞)を授与することとした。

☐ 過去5年間の応募件数、採択件数の推移は以下の通りである。

年度	応募件数	一次選考合格件数	採択件数
平成 21 年度	16 件	16 件	11 件
平成 22 年度	10 件	10 件	8 件
平成 23 年度	15 件	12 件	10 件
平成 24 年度	10 件	10 件	10 件
平成 25 年度	14 件	14 件	11 件

□一次選考は書類選考とし、応募 14 件中 14 件を合格とした。審査は教育支援センター運営会議構成員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②実行可能性の 2 項目について、条件を満足している場合は 3 点以上(5 点満点)で採点し、評価の平均が 6 点以上のテーマを選出した。

□二次選考は公開ヒアリングとし、審査は募集要項に明託の 3 基準を基に①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の 5 基準を各 4 点で採点、合計 20 点満点で審査員(学長、副学長、学部長、センター長)が採点した。採点結果に基づき、教育支援センター運営会議で原案を作成し、学長、教育支援センター長で、11 件の採択を決定した。

□昨年度に引き続き、学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座として松宮朝先生(社会福祉学科准教授)の「社会調査入門」を開催した。

□中間発表会は、参加者 70 名であった。ほとんどの研究グループが全プログラムを通して参加し、学生からも活発に質問が寄せられた。また、従来どおりコメント用紙を用意し、教員、学生を問わず会場の参加者に、各発表グループ宛にコメントを書いてもらい、後日各グループに渡した。

□研究発表会は 95 名の参加があり、いずれのグループもしっかり準備されたプレゼンテーションで、質疑も活発に行われた。昨年度同様、投票資格者は 11 件すべての研究発表を聞いた参加者とし、2 組連記で投票した。なお、副学長、学部長、センター長の配点は一般参加者の 2 倍で計算し、得票数により金賞(同点のため 2 グループ)を選出した。

賞	代表者	研究テーマ
金賞	坂田 智哉 (英米学科)	県大エコキャンパス化研究環境 —ISO 取得を目指して—
金賞	森田 賢徳 (情報科学科)	スマートフォンにおけるアプリ開発研究 —愛知県立大学案内アプリ「APPU!」の作成—

□研究発表会終了後、短い時間ではあるが、簡単なお茶とお菓子を用意して懇親会を行った(後援会からの支援を得た)。その間に金賞、銀賞を決定して発表を行い、副学長から賞状および副賞の図書カードが授与された。

4. 終わりに

今年度の学生自主企画研究も高いレベルで実施されたと言えよう。中間発表では研究の途中成果や進め方について、学生どうしの質疑も活発に交わされ、学生が主体的に考えて研究を進める姿をはっきりと感ずることができた。中間発表会の後、教員と個別に研究のディスカッションをするグループも複数見られ、教員と学生グループで議論が一層深められていた。研究テーマも哲学的、学術研究的な内容から、地域に役立つ取り組み、学内生活・環境へ貢献するものなど、自主企画研究のねらいに沿った様々な取り組みが展開された。本年度の学生自主企画研究の特徴の一つは、その成果物が冊子体、ロボット学習コンテンツ、スマホアプリなどの目に見える形でまとめられたことである。こうした成果が活用され、さらに研究が発展していくことを期待している。学生自主企画研究は本学の特色ある教育のひとつとして定着しつつある。本年度は、本学で開催することになった東海地区大学教育研究会において、本稿に添付した資料に沿ってこれまでの取り組みを紹介した所、他大学からもユニークな事業として大きな関心が寄せられた。自治体からも自主企画研究による地域貢献への期待が寄せられている。今後も本事業が「魅力あふれる大学づくり関連事業」として一層発展していけるよう活動を続けていきたい。最後に、スキルアップ講座の講師を務めて下さった松宮朝先生、献身的にこの事業全般を支えてくださった学務課木下圭一郎課長、発表会場の準備を含め関連する様々な業務を支えてくださった加藤直樹係長、民家春菜主事、加藤可純主事をはじめとする学務課のみなさん、発表会の司会を引き受けてくださった池田周先生、選考ならびに中間発表会、研究発表会における質疑応答に多大なご協力をいただいた、学長、副学長、学部長、センター長を始めとする教員の皆様に感謝いたします。また、何よりも、自発的にこの事業に応募し、自主的に研究を続け、見事な研究成果を上げた学生のみなさんに感謝します。

教育支援センター長 神山斉己